

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 7 年 6 月 20 日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

提出者

住 所 276-0022
千葉県八千代市上高野1795-5

氏 名 株式会社日本デリカサービス 八千代工場
工場長 北山 竜次

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 047-480-1801

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社日本デリカサービス 八千代工場
事業場の所在地	千葉県八千代市上高野 1795番地5
計画期間	2025年4月1日～2026年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	① 事業の種類	製造業 食料品製造業		
	② 事業の規模	前年度の製造品出荷額 134億円		
	③ 従業員数	2025年3月末時点 735人 (正社員50人 常勤関係職員685人)		
	【発生源】	【廃棄物】	【処理方法】	
	製造プロセス ①原料処理 ②炊飯 ③加熱処理 ④盛付	(製造工程発生起因) → 動植物性残さ 廃プラスチック類 廃食用油 ダンボール・紙くず 金属くず	→ 飼料化 → 再資源/サーマル処理 → 有価売却(再資源) → 有価売却(再資源) → 有価売却(再資源)	
	排水処理	脱水汚泥 バキューム引取汚泥(液体)	→ 堆肥化	

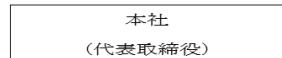
(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

(管理体制図)



(統括環境管理責任者)

ISO14001組織

環境管理委員会(2回/年)

↓ 方針・決定事項の通知

ISO14001組織

工場環境管理推進委員会または
製造部会(毎月開催)

(工場長)

産業廃棄物管理責任者

産業廃棄物担当責任者
(現場担当者)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(2024年度)実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	t	廃プラスチック類	t	動植物性残渣	t
	排出量	6,762	t	692	t	1,178	t
(これまでに実施した取組)							
汚泥 : 堆肥化 廃プラスチック類 : サーマルリサイクル・分別による再資源化 動植物性残渣 : リキッド飼料化							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	t	廃プラスチック類	t	動植物性残渣	t
	排出量	6,492	t	671	t	1,131	t
(今後実施する予定の取組)							
<ul style="list-style-type: none"> 夜間担当者配置による排水処理施設の安定稼働 受注見込精度向上による動植物性残渣の削減 ポカミス内容の分析と対策強化(ポカミス報告の運用) 							

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動植物性残渣、廃プラスチック類、汚泥、金属屑を分別して保管している。
	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 昨年までの取り組みを継続し、再資源化可能な廃棄物の分別を強化する。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】								
	産業廃棄物の種類								
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t						
(これまでに実施した取組)									
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類								
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t						
(今後実施する予定の取組)									

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 2024 年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	t	廃プラスチック類	t	動植物性残渣	t
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0	t	0	t	0	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	5,748	t	0	t	0	t
(これまでに実施した取組) 汚泥の脱水処理							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	t	廃プラスチック類	t	動植物性残渣	t
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0	t	0	t	0	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	5,518	t	0	t	0	t
(今後実施する予定の取組) 汚泥：脱水処理の継続実施。							

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度(年度) 実績】	
産業廃棄物の種類	
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t
①現状	(これまでに実施した取組)
【目標】	
産業廃棄物の種類	
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t
②計画	(今後実施する予定の取組)

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

(第5面)

		【目標】						
		産業廃棄物の種類	汚泥	t	廃プラスチック類	t	動植物性残渣	t
		全処理委託量	974	t	671	t	1,131	t
		優良認定処理業者への 処理委託量	0	t	444	t	0	t
		再生利用業者への 処理委託量	974	t	0	t	1,131	t
		認定熱回収業者への 処理委託量	0	t	671	t	0	t
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0	t	0	t	0	t
(今後実施する予定の取組) • 年1回の処分場視察を継続実施。 • 再生利用業者、熱回収業者など環境に配慮した取引先選定。 • 夜間担当者配置による排水処理施設の安定稼働 • 受注見込精度向上による動植物性残渣の削減 • ポカミス内容の分析と対策強化（ポカミス報告の運用）								
※事務処理欄								

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完工工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。